

# パンフレット (両親指導の手引き書) のすすめ



③ 「子どものどもりQ & A」

② 「ぼくときどきどもるんだよ」

紹介者 東京都墨田区立押上小学校

ことばの教室担当 平永 由美子

—パンフレットを初めて読まれる方へ—

20数年前のことですが、ことばの教室に初めて勤務した時は、ことばのこの字も分からない状態でした。当初は研修機会も今ほど多くなく、昼夜を問わず研修できる場があれば、とにかくどんどん出かけていきました。しかし、日常の指導は待つてはくれません。日々見よう見まねの手探り状態でした。

初めて親の会のパンフレットを手にした時は、本当に心強かったです。その頃、読んでいた専門書は「分厚い」「読みづらい」「難しい」と3拍子がそろっていて頭の痛い思いをしていました。ところが、親の会のパンフレットは、「安い」「薄い」「分かりやすい」と、使いやすく読みやすいものだったのです。それでいて内容も深いです。

そんなパンフレットですから、どれもお勧めですが、今回は、吃音に関するものを2冊紹介します。

③ 「子どものどもりQ & A」

これは、「アメリカ言語財団」が刊行したものを長澤泰子先生が訳されたものです。長澤先生は、はじめの項で次のように書かれています。「～もちろん原因の解明は、これからは続けなければならないのですが、今どもっている子ども達に対して、どうすれば良いかが判ってきたのです。～それにしても、また翻訳かといわれそうです。しかし、研究者の層の厚さを誇るアメリカにおいて、しか

もさまざまな考え方やデータを集約した上で、これで間違いはないという「答え」です。文化の違いがありますので、百パーセントとはいかなくとも、親の不安や心情を考えれば大いに役立つと信じています。～」

実際に読んでみると、物の見方や考え方の違いはあっても、人としての基本姿勢は同じであることがよく分かりました。

私は、お家の方にも読んでいただきたいと思い、同じものを2冊用意しています。

—パンフレットをすでに読まれた方へ—  
時間をおいて読んでみるのもいいものです。様々な子どもたちや家族との出会いの中で、悩んだことの答えが載っていたりします。

上記のパンフでいえば、ヘルパーさんのことだったり、ご両親の関係についてだったり…。それまで経験したことがなく実感できずに、読んでも素通りしていた箇所がありました。読み返すと、心にしみる言葉がたくさんあったのです。お家の方々の思いを受け止めることの奥深さも考えさせられました。保護者の方も悩みをお持ちの方にこそ繰り返し読んでいただきたいです。清涼水のように心に染み渡る言葉に出会うかもしれません。

② 『ぼくときどきどもるんだよ』

子どもは一人一人違って、感じ方も考え方も人それぞれです。ですから、「どもる」ということで、子どもの思いをひとくくりにすることはできません。基本は、その子の気持ちはその子に聞くこと、その子から感じ取ることだと思っています。そこで、私は著者である「イルコ・デ・ギースさん」と、ある子ども（その子を取り巻く人々）とのやりとりを側で見ていたような気持ちで、このパンフを読みました。教えられることがたくさんありました。子どもの気持ちに深く入る手ばかりも学びました。日々の指導の中で子どもからのサインが見えた時、また、読み返したいと思っています。子育て真っ最中の方々にも、ぜひ手にとっていただきたい1冊です。